

委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各委員会は第3回定例会において、次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会 調査報告

① 防災対策の現状と今後の展開について ② 人口減少対策の新たな発想について

① 防災対策の現状と今後の展開について

清水町地域防災計画等について担当課から説明を受けた。

本町は河川洪水、土砂災害を想定して避難勧告等の基準が定められているが、防災無線の老朽化等、伝達方法に課題が残る。

職員の初動マニュアルは、実行性を高める。方策の模索が重要である。

要援護者支援プランは、情報の収集と迅速に活用できる体制が構築され、状況に応じた支援が策定されている。

緊急避難所は町内に20か所を指定しているが、冬期間の除雪、耐震、

非常電源の確保等に課題を残している。

② 人口減少対策の新たな発想について

対策本部の設置までの経緯と、国と道の基本的な考え方の説明を受け、係長以下職員の様々な意見を聞き取った。

議会における今後の対応に意義深い調査となった。

産業厚生常任委員会 調査報告

観光資源再生について

町の様々な魅力を発掘し、道東・十勝へ訪れる観光者の玄関口として位置する清水町の観光資源の再生とともに、情報発信拠点の整備に向けて策定された観光資源再生基本ビジョンについて、担当課から説明を受けた。

町の様々な魅力を発掘し、道東・十勝へ訪れる観光者の玄関口として位置する清水町の観光資源の再生とともに、情報発信拠点の整備に向けて策定された観光資源再生基本ビジョンについて、担当課から説明を受けた。

内の交流人口と元気な町民の増加」となっており、観光入込客数などの数値的目標を掲げるほか、観光客をおもてなしする町内の機運や町民の郷土愛の醸成などに取り組んでいくとしている。



観光資源再生基本ビジョンについて概要の説明を受けた。



人口減少対策専門部会の係長以下職員の意見の聞き取りを行った。

検討が必要であり、第一段階（前期計画）で清水公園や商業施設などを活用した直売所やイベントなどを試行的に行うことにより、利用者や観光者のニーズを収集して、最適と思われる設置場所等を検討するとしている。

第二段階（後期計画）では第一段階の検証を踏まえて資金計画や管理運営計画などの検討のほかに「道の駅」の設置も視野にいれることとしている。

委員会では、固定した発想にとらわれず、団体が協力しあい、広く町民からの意見を取り入れて、交通の要所としての利点を生かした方法を検討して欲しい。清水を通過する時に必ず寄りたくなるようなトイレの設置や、人材育成を目的とした四季塾で出されたまちづくりに対しての意見や構想も十分検討すべきとの意見も出された。

交通の利便性を最大限生かした方法を取り入れながら、多くの町民から支持される実効性の高いビジョンとされることを期待したい。

【移住促進】人口の減少がそもそも悪いことなのか。連携重視のまちづくりで、人口の減少が緩和されるのでは。

【その他】子育て支援サービスは、役場の機能をより高めることにより、多くの可能性がある。

対策本部は将来を考える中で、最重要事項という意識を持ち、人口減少が進んだ場合を想定した上で、議論を重ねる必要がある。